

第2章 庄川流域等の概要

第1節 流域等の概要

1. 流域等の概要

庄川は、その源を岐阜県高山市の烏帽子岳（標高 1,625m）と山中山の山中峠（標高 1,375m）に発し、岐阜県内で尾上郷川、六廐川、大百川等を合わせて北流し、富山県に入り南砺市小牧付近で利賀川を合わせたのち砺波平野に出て射水市大門で和田川を合わせて日本海に注ぐ、幹川流路延長 115km、流域面積 1,189km²の一級河川です。

その流域は岐阜及び富山両県の7市1村からなり、流域の土地利用は、山地等が約 93%、水田や畑地等の農地が約 6%、宅地等の市街地が約 1%となっています。また、下流部に広がる扇状地には、富山県の主要都市である高岡市、砺波市、射水市などが位置し、基幹交通ネットワークとして、JR 北陸本線、北陸自動車道、東海北陸自動車道、一般国道 8 号、156 号があるほか、北陸新幹線が整備中であるなど交通の要衝となっています。

流域内には、白山国立公園と 3 つの県立自然公園及び 4 つの県定公園が存在する等豊かな自然に恵まれています。また、庄川の水質は良好で、その水は豊富な地下水と合わせて砺波平野に及び射水平野を潤し、富山県内一の穀倉地帯を支えているとともに、小牧発電所をはじめとする水力発電など、様々な水利用が行われています。



表 2-1 流域及び氾濫域の諸元

項目	諸元	備考
幹川流路延長	115km	
流域面積	1,189km ²	山地等 93.2%、農地 5.7%、宅地等 1.1%
流域内市町村	7市1村	富山県 5市 高岡市、射水市、砺波市、富山市、南砺市 岐阜県 2市1村 高山市、郡上市、白川村
流域内人口	約 2.8 万人	富山県 2.42 万人 (86.6%) 岐阜県 0.38 万人 (13.4%)
想定氾濫区域面積	241.7km ²	
想定氾濫区域内人口	約 25.6 万人	
想定氾濫区域内資産額	4兆 3,700 億円	
支川数	47	

図 2-1 庄川流域図

2. 地形・地質

庄川流域の地形は、飛騨高原北縁山地、中部丘陵山地を含む南部山地及び砺波平野、射水平野からなっています。

上流山間部では深い溪谷がきざまれ、ところどころで崩壊地形がみられます。また、庄川やその支川沿いには小規模な河岸段丘が点在しており、この段丘を利用して五箇山、白川郷などの集落が開けています。庄川が平野部に出るのは砺波市庄川町青島のあたりで、地形的にはここを頂点とする広大な扇状地が広がっています。庄川扇状地の標高は扇頂部において海拔約 100m で、扇端には三角州が広がり、その西端は小矢部川に侵食された段丘となっています。

河床勾配は、河口部は感潮区間でほぼ水平ですが、下流部では約 1/200、上・中流部では約 1/30~1/180、となっており、我が国屈指の急流河川であります。

庄川流域の地質は、庄川の源流部では新第三紀安山岩類となっていますが、上流部の支川では尾上郷川が中世期安山岩類を、また、六所川が中世期石英斑岩山地を流れています。五箇山地方の小規模な段丘は新第三紀花崗岩、石英斑岩及び流紋岩が侵食をうけて形成されたものであります。下梨より下流の溪谷は新第三紀花崗岩、新第三紀安山岩および火山砕屑岩地帯となり、さらに小牧付近より下流は完新世の流紋岩と火山砕屑岩地帯となっています。

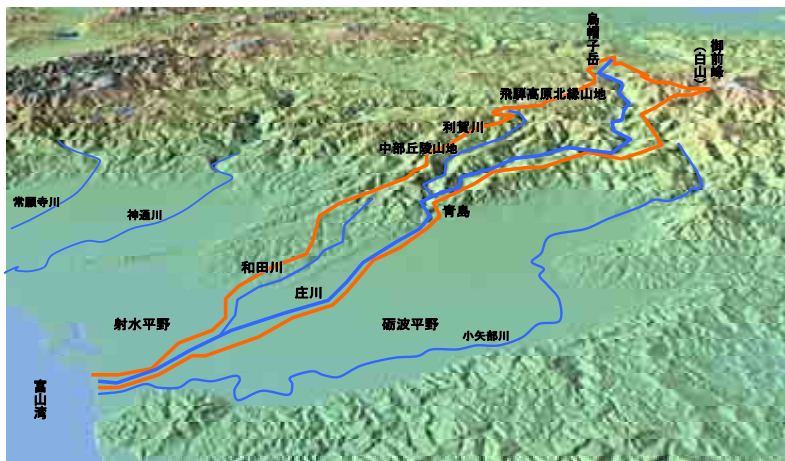


図 2-2 庄川流域の地形

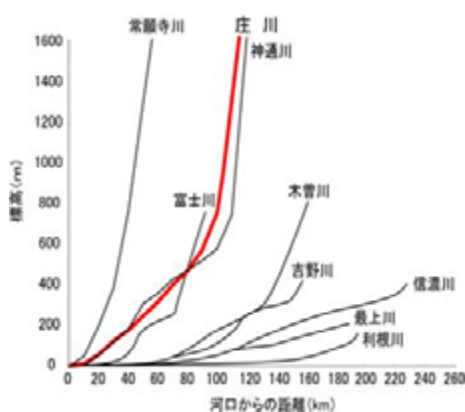


図 2-3 河床勾配の比較図

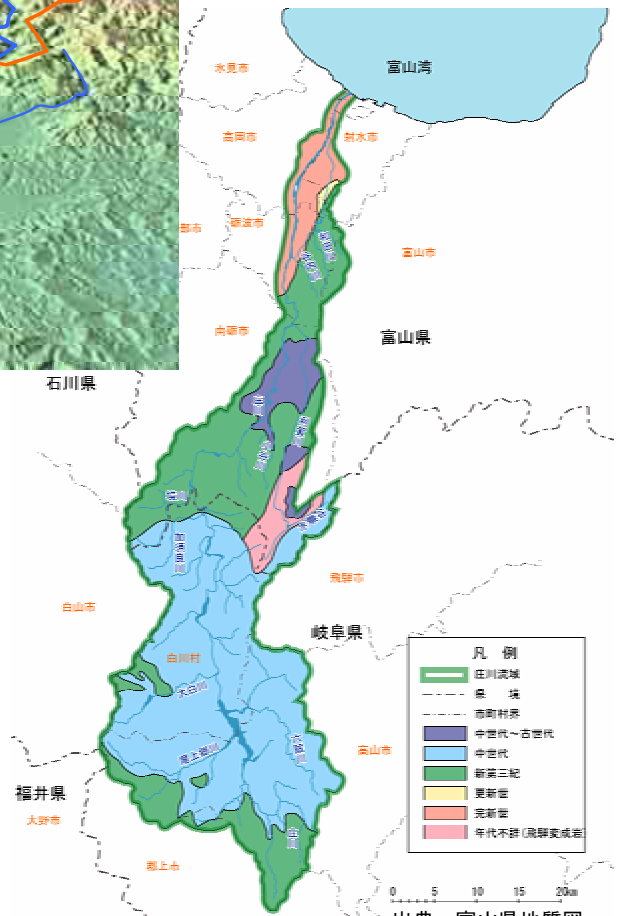


図 2-4 庄川流域の地質

出典：富山県地質図
岐阜県地質鉱山図